

ドライブシミュレータ機器（ハンドル）改造の試み

桔梗ヶ原病院

松塚翔司

【背景】ドライブシミュレータ（以下、DS）の欠点として、(1) ゲーム感覚的な要素が強い、(2) ハンドルの大きさが異なる、(3) ペダルを踏んだ感覚が現実と異なる、(4) DS と実車で運転席の見え方が異なる、(5) 奥行や車体感覚をはじめとする空間的要素の評価が難しいことが挙げられる。リハスタッフの中でも DS は非現実的な要素が多いことを懸念していた。患者からもリハスタッフと同様の意見が聞かれた。今回、周辺機器であるハンドルに着目し、実際のハンドル（以下、実車ハンドル）の取り付けを試みた。

【方法】ハンドル径を測定すると、標準ハンドル（以下、DS ハンドル）の直径は 27.0cm、実際のハンドルの直径は、34.5cm であった。DS ハンドルを取り外し、ステアリングアダプタを使用して実車ハンドルに変更した。

【結果】実車ハンドルの利点として、(1) 現実に準じて運転操作訓練が行える、(2) 勢いよくハンドルを操作しなくなった（結果として、破損しにくくなった）、(3) ハンドル径が大きいことから運転補助装置が必要な方に対し、現実とほぼ同じ感覚で訓練が行えることが挙げられる。DS ハンドルとの差異について患者からは、否定的な発言が聞かれなくなり、入院中に実車ハンドルで訓練が出来て良かったという発言が聞かれた。また、リハスタッフからも運転感覚とほぼ同じであるという意見が聞かれた。

【結語】実車ハンドルを使用することで多くの利点があり、DS 評価・訓練を実施する際は実車ハンドルを用いた方が望ましい。